

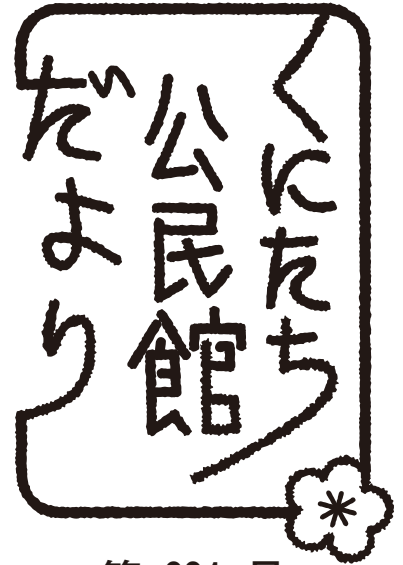
「文教都市くになち」市制施行50周年記念 希望の社会をつくる“知”と“学び”

— 国立市出身の一橋大学長・京都大学総長から次代へのメッセージ —

お 話 たてぬま 蓼沼宏一 (一橋大学長・経済学) × やまきわ 山極壽一 (京都大学総長・人類学)

司 会 沢辺満智子 (社会学博士 (一橋大学出身)、日伊櫻の会運営委員長)

と き 10月22日 (日) 昼1時~3時 ところ 市民芸術小ホール (ホール)



第 691 号

2017年9月5日
(平成29年)

発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

〈登壇者プロフィール〉



■一橋大学長・蓼沼宏一

1982年一橋大学経済学部卒業。

1989年ロチェスター大学大学院経済学研究科修士、Ph.D (博士) を取得。2014年一橋大学

長に就任。専門分野は理論経済学。

著書『幸せのための経済学』効率

と衡平の考え方 (岩波書店) ほか。



■京都大学総長・山極壽一

1975年京都大学理学部卒業。

1977年同理学研究科修士課程

修士、1980年同理学研究科博

士後期課程単位取得退学、理学博

士。2014年京都大学総長に就

任。専門は霊長類学。

著書『サル化』する人間社会

(集英社)、『15歳の寺子屋—ゴリ

ラは語る (講談社) ほか。

今年1月1日、国立市は市制施行50周年を迎えました。市では50周年を記念したさまざまな事業を実施していますが、公民館でも「文教都市くになち」ならではの講演と対談を企画しました。

一橋大学長・蓼沼宏一さんと京都大学総長・山極壽一さんは、ともに国立市ご出身です。日本を代表する大学の長を務めるお二人が学問探求の面白さ、人生を変えた学び、大学とまちの未来などについて語り合います。

1965年に富士見台団地が完成、国立町(当時)の人口が5万人を超え、1967年に国立市制が施行されました。まだ田園風景が残る当時の国立で、お二人はどのような子ども時代を過ごしたのでしょうか。国立を出た後、国内外での研究生活はどのような経験で「学び」であったのか。大学

の長として、若い世代に伝えておきたいことは……。大変ご多忙なお二人が揃って登壇される貴重なこの機会。ぜひご参加ください。

今回は、これから先の50年に向けて、次世代を担う若者にも多く参加してもらいたいと思ひ、青年枠を設けました。下記の申込方法をご確認のうえ、公民館までお申し込みください。

※当日は芸術小ホールのロビーにテレビモニターを設置し、乳幼児連れの方優先の観覧スペースを用意する予定です。詳細は公民館までお問い合わせください。

申込方法

〈青年枠〉

条 件 市内在住の22歳以下の方、もしくは市内の中学・高校・大学・専門学校に在籍している方

定 員 50名 (応募者多数の場合は抽選)

申込方法 往復はがきの往信裏に、氏名(フリガナ)・住所・電話番号・メールアドレス*・学校名・年齢を明記のうえ、下記までお申し込みください。はがき1枚につき1人まで。

*事前に質問を募集しますので、メールアドレスもご記入ください。

申込締切 9月22日 (金) 消印有効

〈一般枠〉

定 員 250名 (市内在住優先。応募者多数の場合は抽選)

申込方法 往復はがきの往信裏に、氏名(フリガナ)・住所・電話番号を明記のうえ、下記までお申し込みください。はがき1枚につき1人まで。

申込締切 9月30日 (土) 消印有効

申込先 国立市公民館 市制50周年記念事業担当

〒186-0004 国立市中1-15-1

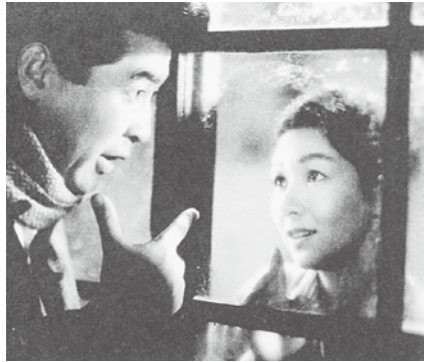
問合せ先 公民館 ☎ (572) 5141

*記載漏れは無効とします。

*返信用表にも住所・氏名を明記してください。

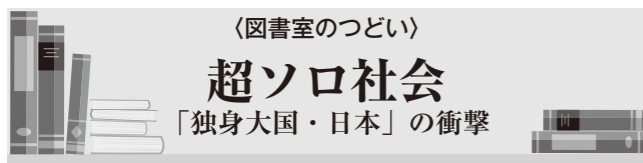


監督・脚本 松山善三 撮影 玉井正夫 音楽 林光
出演 高峰秀子、小林桂樹、原泉、草笛光子、沼田曜一、
荒木道子、加山雄三、高橋昌也 ほか



巨匠・木下恵介門下の脚本家として活躍していた松山善三の第1回監督作品。戦争末期から終戦後までの時代を背景に、懸命に生きる一組の聴覚しょうがい者夫婦の夫婦愛・家族愛を描く秀作。夫婦の会話はすべて手話で、字幕を付けるという画期的な方法が取られた。松山の誠実な演出、成瀬巳喜男作品で知られる玉井正夫の陰影に富んだ撮影も素晴らしいが、何よりも夫婦を演じる高峰秀子、小林桂樹の迫真の名演技が胸に迫る。

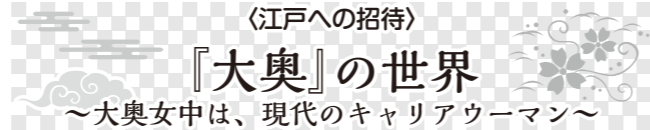
とき 9月24日(日) 昼2時~(開場:1時)
ところ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)
*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。



お話 荒川 和久(独身研究家)
未婚化・非婚化に加え、離婚率の上昇や配偶者の死別による高齢単身者の増加などで、約20年後の2035年に、日本は人口の半分が独身という国になると予想されています。独身生活者研究の第一人者である著者の荒川さんにお話を伺います。ソロ社会へと進んでいく日本の未来を考えてみませんか。

(荒川和久さんの本)
表題作(PHP研究所)の他、『結婚しない男たち 増え続ける未婚男性「ソロ男」のリアル』(ディスカバー携書)等。

とき 9月21日(木) 夜7時~9時
ところ 公民館 3階講座室 定員 35名(当日先着順)
*申し込みは不要です。ご自由においでください。

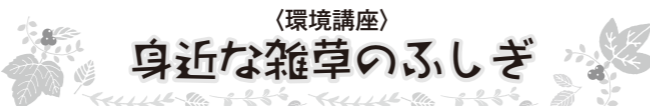


講師 山本 博文(東京大学史料編纂所)

一般的に「大奥」と聞くと“將軍を取り巻く女性たち”というイメージを持つ方も多いかと思いますが、実はしっかりと組織化された会社のようなところでした。春日局に始まる大奥の成立から天璋院、和宮に続く江戸幕府崩壊まで三百年近くにわたる歴史の中で、女性たちがいかに活躍し、江戸の世を支えてきたか……秋のひとときにタイムスリップして大奥の世界をのぞいてみませんか。現代にも役立つヒントがあるかもしれません。

(山本博文さんの著書)
『江戸学講座』(新潮社)、『大奥の世界』(洋泉社)ほか。

とき 9月27日(水) 昼1時半~3時
ところ 公民館 3階講座室
定員 35名(申込先着順)
申込先 9月8日(金) 朝9時~
公民館 ☎ (572) 5141

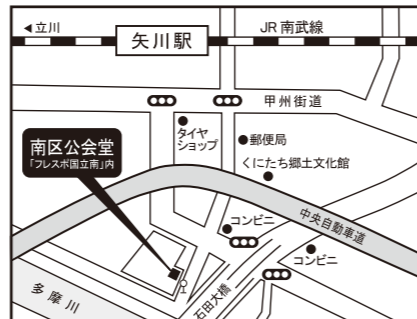


講師 森 昭彦(サイエンス・ジャーナリスト)

山や野原、道端、そして家の庭でひっそりと、しかし美しく、しなやかに生きる多種多様な雑草たちは、ほかの植物と何が違うのでしょうか。人間は雑草とどうやって暮らしてきたのか、環境にどのように影響しているのか、したたかな生命力はどんな仕組みなのか、私たちの気づかない世界が身近なところで広がっています。

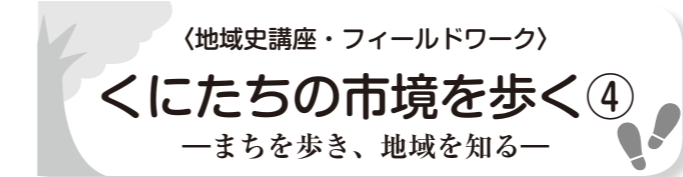
今回は、私たちの生活に身近な雑草に目を向けて、学んでみたいと思います。雑草に対する見方が変わるかもしれません。
*講座の前半は座学、後半は多摩川周辺を歩きます。小雨決行。ただし荒天の際は、後半も座学になります。

とき 10月7日(土) 昼1時半~4時半
ところ 南区公会堂 ホール 多摩川周辺
定員 20名(申込先着順)
持ち物等 歩きやすい服装(白色系)、帽子、飲み物、筆記用具
申込先 9月8日(金) 朝9時~
公民館 ☎ (572) 5141



講座参加者の声
「母と娘のおすかし」に参加して
板垣 陽子
ずっと仲良しだった母に違和感を感じるようになったのは20代前半だったかと思います。特に結婚のことでずいぶん親の希望や娘に期待することを言われ、母の期待に応えたい気持ちと自分の率直な気持ちとが相反するために、重大な判断に迷うことが多くなり、自分が本当はどうしたいのかが、すっかり分からなくなっていました。親切なはずの母が当時どうしてあんなに理不尽だったのか、どうしてあんなに助けにならない迷惑な存在だったのか、長い間わからず、苦しい思いで母と接していました。この講座は、そんな私の疑問を解決するのにちょうど良い内容でした。
母親は、同性である娘にいろいろと期待してしまうものだということが、寂しさがあると娘に依存する場面もあるということ、また、娘は、本当は、母親の期待に応えようとする必要はないし、自分で自分の人生をデザインしていく(＝自立する)べき存在なのに、親の期待に応えたいと思ってしまう

うものだということ、など様々な傾向やパターンを教えていただくことで、母の弱点についてイライラすることが減り、母も今でも発達途上にある一人の女性なのだとか客観的に思えるようになりました。いま、私も娘を育てていますが、どのように接していけば、より子どもの可能性を引き出せる母親になれるのか、自分で自分の人生を作っていく自信のある子に育てられるのか、答えを探しながらの毎日です。でも、講座の中で「娘の育て方が分からない、気持ちが誰にでもあること、完璧な子育てや家庭生活を送っている人はいない。皆悩んでいるし、勉強していても迷うもの」というお話があり、すっと肩の荷が軽くなったことを覚えていきます。
また、今の自分が持っている身の周りのリソース(財産のようなもの)を再発見する方法や、今の家族関係がより良くなるための方法についての実践的なアドバイスなどもあり、とても為になる講座でした。
今年度のご案内が右下にあります。是非参加ください。



講師 角田 清美(元都立高校教員)

市境を歩きながら、くにたちの歴史や自然について知る講座の第4弾。今回は国立市の西側、立川市・日野市との境を歩きます。

第1回はくにたちの地形と立川断層について学びます。地形図を読み解きながら、実際に自分で地図を作ってみましょう。第2回は作った地図を持ちながら、西国立駅から矢川緑地を抜け、多摩川までの立川との市境および多摩川沿いの日野との市境を歩きます。

第1回 地域の調べ方(学習会)
とき 10月1日(日) 朝10時~12時
ところ 公民館 3階講座室
持ち物 色鉛筆、ものさし

第2回 フィールドワーク
とき 10月8日(日) 朝9時~12時頃
集合・解散 JR南武線 西国立駅改札集合、南区公会堂(立川バス停留所「国立操車場前」)解散予定
*小雨決行。ただし荒天の際は、郷土文化館でお話を伺います。
持ち物等 歩きやすい服装、飲み物、筆記用具

定員 15名(原則2回続けて参加できる方、申込先着順)
申込先 9月12日(火) 朝9時~
公民館 ☎ (572) 5141
協力 国立まなびあるきの会



講師 大美賀 直子(精神保健福祉士、産業カウンセラー・All About「ストレス」ガイド)

母と娘の関係には、心理的な距離の近さから生じる難しさがあります。母が娘に依存してしまう背景にはさまざまな原因がありますが、同性同士であるがゆえに、共感によってお互いを拘束してしまうことがあるのです。その影響から、家族から自立できない大人になったり、機能不全家族のなかで育ち、成人してもそのトラウマを抱えている「アダルト・チルドレン」と呼ばれる大人になることもあります。摂食障害や非行といった影響までもまねくことがあるこの問題を正しく理解し、じっくり考える機会にしましょう。



保育 子ども定員:若干名(先着順、市内在住の方のみ)定員超過の場合は抽選。申込締切 9月21日(木)。保育室オリエンテーションを9月30日(土)朝10時から行います。おやつ代180円(全6回分)をお持ちください。

とき 10月7、14、28日、11月18、25日、12月9日
いずれも土曜日 朝10時~12時 全6回
ところ 公民館 3階集会室
定員 女性20名(年齢不問、申込先着順)
申込先 9月16日(土) 朝9時~
公民館 ☎ (572) 5141

〈公民館・「田辺鶴瑛の介護講談」上映実行委員会共同企画〉

「認知症とともに生きる」

『田辺鶴瑛の介護講談』上映会・介護を語る会

2025年に700万人が「認知症」になると言われる今日。公民館では、2015年からこのテーマについて考える映画会等を市民と共同して実施してきました。今回も公民館と市民による実行委員会で以下の通り共同企画しました。

と き 10月12日(木) 昼1時半～4時(開場:1時)
1時30分～『田辺鶴瑛の介護講談』(60分) 上映会
2時45分～「介護を語る会」(グループでの話し合い)

ところ 公民館 地下ホール

定 員 85名(当日先着順。事前予約可、下記連絡先まで)
*実行委員会連絡先 ☎090-3247-8848(矢崎薫)

参加費 500円(映画上映料)



介護のつらさを笑いに変えていく(映画「田辺鶴瑛の介護講談」より)

一子ども・若者を支えるつながりづくりー

放課後「学び場」ネットワークフォーラム

公民館・くにたち地域コラボ・NHK学園高等学校共催

いま市内では、子どもたちが放課後に楽しく学べる無料の学習支援の場がいくつか運営されています。こうした「学び場」は、行政・地域の連携・協力によって運営され、勉強のサポートとともに「居場所」として安心して過ごせることなどが大事にされています。

しかし、各地で多様に広がるこうした取り組みに子どもの参加が増え続けているなか、取り組みの内容が学校・行政・地域で十分に共有されていないことや、より必要としている子どもには届かないことなど、共通の課題も浮かび上がってきました。

今後も地域で子どもの成長を支える、豊かな「学び場」「居場所」をつくっていくために、私たちは今、なにができるでしょうか。今回は埼玉県を中心に先駆的な学習支援活動を行ってきたNPO法人代表の青砥さん、一橋大学で教育格差問題を研究する山田さんをお招きし、市内の取り組み、情報などを共有しながら一緒に考えます。

講 師 青砥 恭 (NPO法人さいたまユースサポートネット)
山田 哲也 (一橋大学・教育社会学)
*市内の「学び場」の活動報告なども予定しています。

と き 9月23日(土・祝) 昼1時半～4時半
ところ 公民館 地下ホール 定 員 60名(申込先着順)
申込先 9月6日(水) 朝9時～
公民館 ☎(572) 5141

〈くにたちブッククラブ 世界の軌む音を聞く〉

遠藤周作『沈黙』 (新潮文庫)

講 師 佐藤 泉 (青山学院大学・日本近代文学)

と き 9月14日(木) 夜7時半～9時半
ところ 公民館 3階講座室
申込先 公民館 ☎(572) 5141
*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が読み出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。

公民館運営審議会報告

8月8日(火) 第10回定例会を開催。委員14名、館長、職員2名が出席。傍聴2名。

前回事務録確認

○第30期国立市公民館運営審議会答申のふりかえる会について
試行的な実施を予定している「公民館活動をふりかえる会」の企画協議について、世話人会より報告と提案があった。

成果として、公民館主催事業のふりかえりの必要性が職員と市民の双方の観点から確認された。また、ふりかえる会について、よりよい事業企画・運営のために職員と市民が一堂に会して「研究」を行う場であるとの見解が得られた。

ふりかえる会の具体化に向けて、世話人会より8月29日(火) 夜に公運審委員の参加による「プレふりかえりの会」の予行が提案され、協議の後、実施が決定された。

報告事項

○公民館だより編集研究委員会
8月号「図書館のつどい」より読み手に誤解が生じないように表記の工夫が施されることになった。

○社会教育委員の会
7月24日(月) 第3回定例会を開催。前期の答申で示された重点施策に関して、他市の先進事例を共有し、意見交換が行われた。

○東京都公民館連絡協議会
来年開催の研究大会の企画会議報告や各市情報交換が行われた。

次回定例会は9月12日(火) 夜7時15分から。傍聴歓迎。(間瀬)

〈社会体育事業〉

「街を・山を歩く」第2回

日 時 10月5日(木) <雨天中止>
集 合 谷保駅北口 朝9時
実施方面 八王子市 めじろ台～長沼方面
(距離:約10キロ)
*第1回は雨天中止になりましたので、今回は第1回目のコースを歩きます。

対 象 市内在住、在勤者
チ ラ シ 9月11日(月) から
市役所3階生涯学習課、市民総合体育館、公民館、北・南市民プラザで配布します。

申込方法 チラシの内容(日程、コース、申込方法等)をご確認のうえ、
9月12日(火) から28日(木) の期間に下記までお申し込みください。

申込・問合せ先 教育委員会 生涯学習課
社会体育担当
☎(576) 2107(直通)

〈社会体育事業〉

「60歳からの健康体操教室」参加者募集

日時、会場 ①10月16日(月)・30日(月)・
11月6日(月)・13日(月)・20日(月)
北市民プラザ 多目的ホール
(北3-1-1 9号棟1階)
②11月7日(火)・14日(火)・
21日(火)・28日(火)・
12月5日(火)
市民総合体育館 第三体育室
(富士見台2-48-1)
*各5回ずつ実施。(①と②の内容は同じです。)

いずれも朝9時30分～11時30分

指 導 員 国立市スポーツ推進委員 塩野 啓子 他
対 象 60歳以上(市内在住・在勤者)
費 用 保険料1日につき150円
募 集 人 員 各30名(教室参加がはじめての方優先・応募多数の場合抽選)

持 ち 物 等 運動のできる服装・室内用運動シューズ・
飲料水・タオル・保険料

申 込 方 法 往復はがきの往信用裏に・氏名(フリガナ)・年齢・性別・住所・電話番号・希望する会場①か②を明記の上、下記までお申込みください。(はがき1枚につき1世帯まで可。お一人様1会場の申込みでお願いします。)*返信用表にも住所・氏名を明記してください。

申 込 締 切 ①は9月29日(金)、②は10月31日(火) 必着

申 込 先 〒186-8501 国立市教育委員会
生涯学習課「60歳からの健康体操教室」係

問 合 先 生涯学習課 社会体育担当
☎(576) 2107(直通)

ひろば

(6ページにもあります)

水彩画描きませんか 会員募集

水彩画を楽しむのびのびと描くことをモットーに活動しているサークル「くにたち彩の会」です。年一回作品展開催。一緒に水彩画を描いてみませんか。見学歓迎。

日時 第一・三木曜日朝9時半～
場所 芸小ホール アトリエ
連絡先 三田村(574) 7236

社交ダンス 会員募集

しっかりとステップを覚えたい方歓迎、火曜(ワルツ・タンゴ・ルンバ)他金曜に中級を目指す方ばかりプラザ朝日時半からも募集費用一回六百元、社交ダンス絆

日時 火曜日昼3時～2時間
場所 公民館 地下ホール
連絡先 櫻井090(5359) 4846

「公保太極拳同好会」会員募集

太極拳に興味はあるけれど、私にできるかしら?と悩む前に是非体験を!初めてでも無理なく続けられる気功体操を中心に体のなかから健康になりませんか?

日時 毎週火曜日朝10時～12時
場所 矢川集会所
連絡先 長谷川090(8303) 7254

くにたち国際友好会WING

9月は「ベトナムに見る日本」と題して一橋大学留学生チャン・ゴ・ニヤチャンさんが講演します。交流の場もありますのでお楽しみ下さい。

日時 9月21日(木)夜6時半～
場所 一橋大学 国際交流会館
連絡先 和田090(3497) 2110

文章表現の会

あなたにだけしか書けない文章を、会のメンバーに披露して、感想を合おう。こうして文章と表現を勉強していきます。是非仲間になって研究しましょう。

日時 毎月第二・四曜日朝10時
場所 公民館 講座室等
連絡先 森本(574) 8053

謡曲・仕舞(観世流)会員募集

日本の伝統芸能の能楽の歌と舞を学んでみませんか。初心者も歓迎致します。能楽師の先生の指導で年齢を問わず楽しんでお稽古をしましょう!

日時 第二・四曜日夜6時～
場所 東地域防災センター
連絡先 八田090(6002) 2618

和弓をひいてみませんか!

和弓は姿勢を良くし、集中力を養い誰にでも出来るスポーツです。初めての方も最初は会の用具を使えます。会費一回500円、詳細は夜7時以降電話を。くにたち弓友会

日時 週一回(日)又は(土)午前中
場所 昭島市弓道場(東中神駅)
連絡先 長谷川(576) 1489

昭和の歌を歌う会(参加無料)

誰でも知っている歌を歌手の指導とピアノ伴奏で楽しく歌いましょう。EADで昭和の歌を歌う会参加希望として、住所、氏名、電話番号を☎25564へ申込下さい。

日時 9月21日(木)昼2時
場所 公民館 地下ホール
連絡先 幹事090(3138) 9165

第217回くいしんぼクラブ

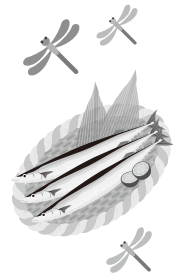
タイ料理

ガパオライスとグリーンカレーを習いましょう。材料費800円。ふさんとゴミ袋をご持参下さい。

日時 9月30日(土)昼1時
場所 福祉会館 料理講習室
連絡先 八宮(571) 1007

ひろば

(5ページにもあります)



くにたち市民オーケストラ

第39回定期演奏会
ラヴェル古風なソヌエット ヒン
デミット交響曲『画家マティス』
フランク交響曲二短調 指揮 和
田一樹入場料千円高校生以下無料
日時 10月1日(日)昼2時開演
場所 杉並公会堂 大ホール
連絡先 事務局080(545)9292

人物画の会 17年度

今年秋早々、10月に行います
日頃描いている人物に加え、静
物、風景も加え、80点以上展示
いたします。どうぞおいで頂き楽
しい時間を過ごしたいと思えます。
日時 10月2〜7日朝10時〜17時
場所 芸小ホール ギャラリー
連絡先 榎本(57)0385

くにたち混声合唱団・ときわ
第二回公開練習・見学大歓迎!

モーツァルト「レクイエム」谷
川俊太郎詩「春に」「信じる」他
ポピュラーや日本の歌も予定。友
達を誘いお気軽にご参加ください
日時 10月1日(日)昼3時15分
場所 さんせいホール(公民館隣)
連絡先 深町090(8592)2444

今月の公民館 (9月、10月初)

*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 14日(木) 夜 くにたちブッククラブ
遠藤周作『沈黙』
- 21日(木) 夜* 図書室のつどい
超ソロ社会「独身大国・日本」の衝撃
- 23日(土・祝) 昼 子ども・若者を支えるつながりづくり
放課後「学び場」ネットワークフォーラム
- 24日(日) 昼*^{シネボックス}CINEVOX公民館映画会
『名もなく貧しく美しく』
- 27日(水) 昼 江戸への招待 『大奥』の世界
- 10月1日(日) 朝〜 地域史講座・フィールドワーク
くにたちの市境を歩く④
- 7日(土) 朝〜 母と娘のむずかしさ
- 7日(土) 昼 環境講座 身近な雑草のふしぎ
- 12日(木) 昼* 「認知症とともに生きる」
『田辺鶴瑛の介護講談』上映会・介護を語る会
- 22日(日) 昼「文教都市くにたち」市制施行50周年記念
希望の社会をつくる“知”と“学び”
一国立市出身の一橋大学長・京都大学総長から
次代へのメッセージ

市民交流ロビー利用制限のお知らせ

公民館では、1階から市民交流ロビーへ降りるための段差解消機の入替工事を今月から実施する予定です。工事に伴い、市民交流ロビーではグループでの展示ができなくなります(休憩や交流スペースとしてはお使いいただける予定です)。詳細については分かり次第、公民館だより、館内掲示、市ホームページ等でお知らせいたします。

〈サークル訪問312〉 アボカドス

アンデス音楽を演奏するサークル「アボカドス」。
まずは縦笛のケーナの音出し練習。「さっさっ、その音!」。リーダーの成田昭夫さんの声が飛ぶ。机の上には長さの違う管をつなげた楽器も。サンポーニャといっ

て出てくる。ほかに、弦楽器のチャランゴ、ボンボという太鼓などが合奏で使われるが、ここではケーナとサンポーニャのアンサンブルを中心に練習している。

「私は楽器などやったことがなかったんです」と、4年前のサークル設立当初からのメンバー加木洋子さん。成田さんが講師を務めた「ケーナを作って吹いてみませんか」という講座を受講したのがきっかけで始めたとのこと。昨年秋から加わった紅林佐起子さんも、やはり成田さんが講師のサンポーニャ作りを体験して楽器を始めた。

試みに筆者もケーナを吹かせてもらった。最初こそ偶然音が出たが、その後はスカー、スカーと空気が抜けるばかり。ケーナは表に6個、裏側に1個の穴が開いている。リコーダーよりも少ない穴で、なんと4オクターブも音が出ると

いう。「単純な作りですが、とても奥が深いんです」と、成田さん。「先住民の時代から祭りや生活に密着した音楽なので、簡単な曲が多いんです。歌い踊り、空間で音を楽しむんですね」

基本だという「二羽の小鳩」という曲を合奏したり、それぞれに音出しの練習をしたり。お茶を飲みながら休憩しているはずが、いつの間にか合奏が始まったりと、自由な雰囲気練習は進んだ。

サークル名の由来は、成田さんがアボカドが好きだから、だそうです。メンバー募集中で初心者大歓迎とのこと。

日時 日曜不定期昼2時〜4時
場所 公民館 音楽室
連絡先 加木(576)9759

〈文・写真 西尾万樹〉



演奏会を目指して